

2016/06/19 第2回琵琶湖トライアスロン in 近江八幡に参加して

奥野 孝

最初この参戦記を全く書く気はなかったのですが、S院さんの薦めもあり恥をしのいで……。

35歳の時、当時小原さんに宿の手配とか色々面倒をみてもらった珠洲トライアスロン。

この大会を最後にウルトラマラソンの道に進み、もう公式の大会に出ることはないだろうと思っていました。ところが50歳を前に不思議とマラソンのタイムが縮まりだし、周りの影響もあって昨年からはまった琵琶湖トライアスロンなら近くて手軽かもということで参加を決めました。

土曜日、前日受付ということで松田車に宿院さん、前田美里、私と計4人で出発。マラソンの準備に慣れている身にとって、トライアスロンの装具の用意や約束事の多さに準備の段階で早くも疲れてしまう。明日の本番は大丈夫なのだろうか。

大会当日は前日の快晴とはうって変わって曇りで雨の予報。9時3分に第2グループとしてスタート。スイムは750mの三角コースを2周回。新調のウェットスーツは腕が良く上り胸の締め付けも無く順調に1周目を終え、2周目に向かおうと浅瀬を歩いていると後ろから私の名前を呼ぶ声。

「過呼吸で死にかけた、今日はあかんわ！」そこにいたのは宿院さん。「まあ無理せんと、マイペースで！」と返す。腹の底では、しめしめスイムで疲れてくれたらこっちは貯金ができ、バイクで追いつかれて、ランでバトルが楽しめるかも、と皮算用。ところがスイムアップしてトランジットに行くと宿院さんは着替えの最中で、あっという間にバイクと共に消える。離されてなるものかとバイク乗車ラインまで走り、足を固定させてさあスタートと前を見ると、目には前車の後輪が現れ、やばい、と思った瞬間地面にたたきつけられる。単独転倒。「痛え、痛え」とぶつぶつ泣き言を言いながら時計のラップタイムを押すのも忘れ、サイクルメーターとにらめっこしながら周回を重ねて第2トランジットへ。

この大会スイム～バイクは第1トランジット、バイク～ランは第2トランジット、ゴールは第1トランジットと2か所に分かれているからちとややこしい。ランに移ってしばらくは慣れないバイクを頑張り過ぎたせいか、心臓の動きが一向収まらない。心臓がバクバクしたまま呼吸が苦しくスピードが出ずおかしい、なんでやと自問しな

がら走る。この時点でランのラップだけでも計ればよかったのに余裕がなかったのか、コース上の表示で十分とたかをくくったのが失敗のもと。第1トランジットと第2トランジットの間2.8キロを3周半すればよいと思っていたのに、ゴール手前の看板は4周してからゴールへの表示とスタッフに聞いても4周と言う答えが返ってくる。じゃあ4周と半分なのか？

さっぱり分からなくなって4周半でゴールし、KTCの選手、ボランティア参加の原口夫妻、応援の武市さん集まる輪の中へ入るやいなや「1周回間違っているぞ！」とのお言葉。その場では照れ笑いするしかありませんでした。

帰宅して一人になって冷静に考えてみると、トライアスロンの初心者でもない自分が何という失態をしでかしたのか恥ずかしい限りです。

この反省文をしっかりと心にとめて来年の琵琶湖に向けてこの1年しっかり精進する次第であります。